

1 学校紹介

本校学区の袖ヶ浦団地は、昭和42年度に京葉港第一次埋め立て地として、鷺沼、津田沼、谷津地区海岸を埋め立て、日本住宅公団の手によって建てられた団地である。

学区は、千葉街道（国道14号線）以南と、京葉道路を挟んだ地域の中にある。周辺には公園があり、緑豊かで大変住みやすい環境である。児童数も昭和61年頃まで千名を超えていたが、だんだんと減少し現在は200名を下まわっている。交通機関に恵まれ、JR津田沼駅、新習志野駅からのバスの便もあり、通学・通勤に便利である。

全国でも珍しい鹿を飼育しており、高学年の児童が鹿小屋の清掃をしたり、餌やりをしたりして親しんでいる。

2 研究主題

考える楽しさにつながる学び

～学習素材や式の意味理解を高めることで、主体的に学習に取り組む意欲と態度を育む～

3 研究の概要

(1) 児童生徒の実態と課題

令和3年度全国学力・学習状況調査において、本校児童の算数の結果は、全国平均値をやや下回るものの平均値に近い。

一方で、算数に比べて国語の成績は全国平均を著しく下回る。各学級担任の肌感覚としても、技能に大きな課題は見られないものの、問題を読み解く能力に課題がある。算数の領域別に見ても「データの活用」が平均を下回っている。これらのことから、文章を正確に読み解き、情報を正しくつかむことが苦手であることがわかる。

また、本校で独自に行っている学力テストでは、主体的に学習に取り組む態度の数値が全国平均を下回っており、実際の能力とは別に、苦手意識をもっているようである。

これらのことから本校児童の課題は、学習素材を中心とした文章問題の読解力向上にあると考え、研究の副主題として設定した。

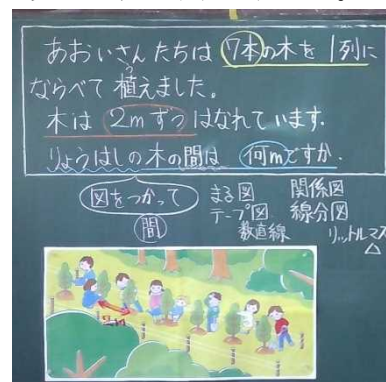
(2) 学力向上のための取組

研究主題にもある「学習素材や式の意味理解を高める」ために次のような取組を行った。

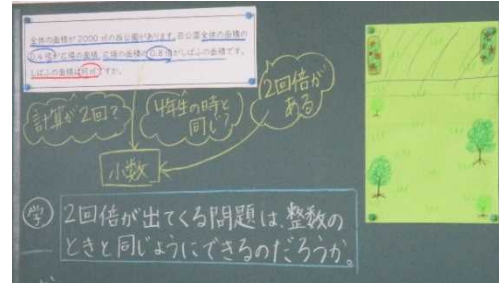
① 学習素材を全体で読み解く時間を設け、児童一人一人が場面理解できるようにする。

学習素材を児童に提示した後、全体で素材について話し合う時間を設けた。聞かれていることや、わかっていること（数値、条件）などを明らかにする他、解き方の見通しをもたせるために式や手順の予想を話し合った。

学習素材に色チョークで下線を引いたり、児童の発言を吹き出しなどで板書に残したりすることで、これまでは自



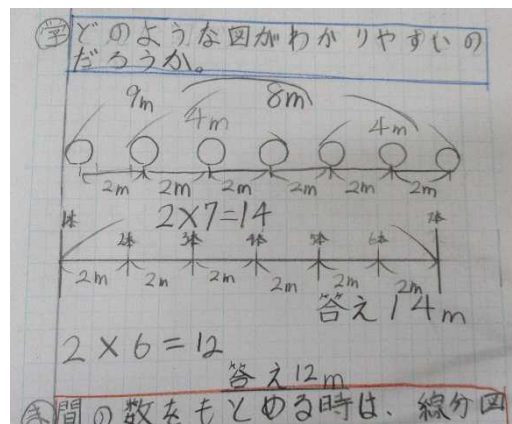
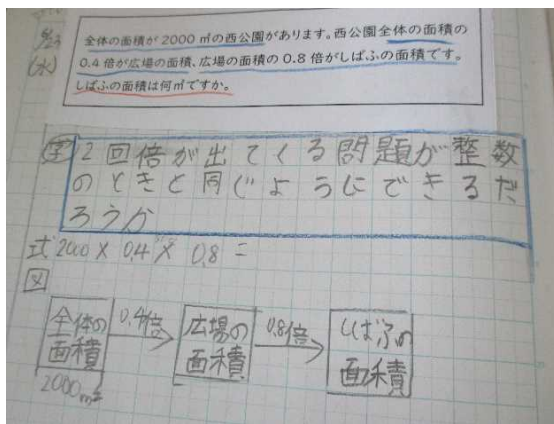
力解決が難しかった児童も進んで学習に取り組むことができたり、学習問題の設定や話し合いの論点を明確にもったりすることができた。



②線分図や関係図などを扱う指導を行い、考えを整理し場面理解に役立てる。

線分図や関係図等の、図によって情報を整理する方法は、「素材を理解し問題を解くための武器である」ことを意識させ、立式することと同時に図によって示すことを徹底した。

これにより、児童は「わからないことも図にすればわかるようになるのではないかと」という解決のための見通しをもつことができるようになった。

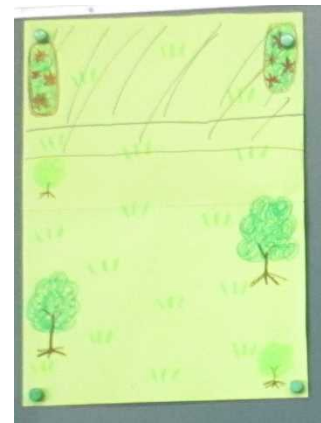


③具体物操作の機会を積極的に設け、学習素材や式の意味理解を高める。

学習素材に即したイラストカードや数図ブロックなどを用いて、具体物操作による理解を図った。特に理解が不十分な児童には、理解を深める効果が見られた。

5年生の「小数のわりざん」の学習では、全体の中の一部の面積を求める際に、公園を描いたイラストカードを用いて、面積の見当をつけた。数式だけで考えた時には起こりがちな、一部の面積が全体の面積よりも広くなってしまふような誤答を防ぐことができた。

3年生の「間の数」の植木算の学習では、木のかかれたカードを実際に操作しながら考えることで、木の本数よりも間の数の方が1本少なくなることに気がつくことができた。



④一人一台のタブレットを活用して考えの共有を円滑に行う。

自力解決の後、自分のノートを撮影し、teamsに投稿した。実物投影機のように、TV画面に映し出された画像を使って自分の考えを発表することができた。



考えを共有することができる他にも、自力解決に至らない児童は友達の考えを参考にしてノートに自分の考えを書くことができた。児童が自分のペースや理解に合わせて、他の児童の考えからヒントを得たり、考えを広げたりするのに役立った。

また、タブレットを使った情報共有が進めば、児童同士の考えをタブレット上で事前に伝え合った上で、理解しきれなかった点について話し合う等、反転学習のように扱うこともできるようになるのではないかと考える。



⑤習熟度別の少人数指導。

児童の自己申告による習熟度別の少人数指導を行った。担任が一斉指導で行う「一斉コース」と、少人数指導教諭と「ちばっ子の学び変革」加配教諭によるTTで10名程度の「丁寧コース」に分かれて行った。

「丁寧コース」では、学習に自信のない児童も質問したり発言したりしやすい環境が用意できているため、意欲的に学習に取り組むことができた。また、困っている児童をよりよく見取り、適切に助言することができた。

「一斉コース」でも、全体の人数が減るため、発表したり話し合ったりする機会を増やすことができたため、主体的に話し合い、問題解決のために意見を出す様子が見られた。

(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用

①毎週ミニテストを実施し、学習内容の定着と意欲の向上を図る。

5問程度のミニテストを毎週実施した。

その時期に学習している単元とは異なる単元の問題を選んで出しつつも、基礎基本の問題を中心とした出題のため、児童らは意欲的に取り組むことができた。

②重点単元を設定し、学級担任（授業者）とともに授業改善を図る。

2学期に、学級担任と「ちばっ子の学び変革」加配教諭とで重点単元を設定し、授業改善に取り組んだ。TTで授業に取り組み、ふり返りカードの記入と授業内容の検討を行った。

単学級の学年が多い本校においては、授業について相談できる環境を作り出すことができた。

③児童のふり返りを分析し、学習内容の理解や意欲の向上に生かす。

学年ごとに設定した重点単元では、ふり返りカードによるふり返りを積極的に行った。

ふり返りカードへのコメントの記入や評価と同時に、ふり返りの自己評価や記述を表にまとめることで、単元を通しての個々の児童の変化を見取ることに役立った。

4 成果

研究主題として挙げた「学習素材や式の意味理解」を意識して授業を行うことは、児童が問題を解決していく必要感を高めることにつながり、学習のゴールを明確にしていけることができた。これは、児童が主体的に学習に取り組むことに結びついた。

さらに、研究授業を行い、講師の先生から指導をいただいたり、教員間で話し合ったりすることは、日常の中で取り組んできた指導の意義を確認することにつながった。

タブレットを使用した実践も多く行われた。児童が1人1台タブレットを持つことで、教師側にもタブレットを積極的に利用しようとする意識が高まった。

今年度の取組の成果を学校全体で共有し、日常的・継続的に取り組むことで「学習素材や式の意味理解」を高めていきたい。

5 今後の課題

研究主題として「学習素材や式の意味理解」を挙げたが、児童に読解力が身についたのかをどのように見取っていくかを検討していかなければならない。

現在は絵や図による提示、具体物操作や図によって意味理解を図っているが、果たしてこれらの手だてが「学習素材や式の意味理解」の向上につながっているのかを検証し、必要に応じて改善を行っていくことが求められる。

児童の自己評価によるふり返りも、今後継続的に進める中で、主体的に学習に取り組む態度の評価に結びつけられるようにするために、どのように評価していくのかを検討していきたい。

A	A	B	今までより少し進った図だけよくわかった
A	A	C	今日の問題は昨日のやつと似てるから簡単だった。
A	/	C	久しぶりに九九をやって楽しかった。
A	B	C	少し難しかった。
A	A	C	むかしならった()をわすれて3つの式で考えれば簡単
B	B	C	面白くて簡単でした。
A	B	C	図は計算するときらくちんに計算ができる。
A	C	A	図とわり算は合体させると簡単になるのがわかりました。
A	A	A	図は面白かったです。
A	B	A	図は少し簡単になってきて楽しいです。
A	A	A	倍の学習はかけ算やわり算で考えることができました。
A	A	A	関係図は3つでかけるなら4つでもかけるかもしれないとおも
A	A	B	関係図の数字の場所をわり算やかけ算にして式にするとわかり
A	A	A	2種類の式をつくるより、とぼして式をかけたほうがよめりも簡単
A	A	A	3つの式の式でわかりやすく計算する方法がわかりました。
B	B	B	図はテープ図などの図しか知らなかったけど、関係図があるな
A	A	A	関係図が3つあるなんてびっくりしました。
A	B	A	図にするだけでも簡単です。
A	A	A	ペットボトルと水筒の口倍の関係図が簡単だと思いました。
A	A	A	かっこがあるかけ算は久しぶりだったのでまた思い出しました
A	B	B	新しい図のかき方を知ってそのやり方が簡単だと思った。
A	A	A	関係図は2つの関係図だけじゃなくて3つでもできるのがびっく
B	B	B	わり算とかけ算でできる関係もあればわり算でできなくてかけ算で関係が解けることもあ
A	A	A	関係図が3つの図でも簡単にできるようになってきた。